

基礎研 レポート

「ニッポンの結婚適齢期」 男女の年齢・徹底解剖（1） —2018年婚姻届全件分析（初婚男性編）—

生活研究部 人口動態シニアリサーチャー 天野 馨南子
(03)3512-1878 amano@nli-research.co.jp

はじめに

筆者は人口動態をリサーチし、その分析結果について様々な角度から全国で講演会を実施させていただいている。残念なことに、この日本において人口問題ほど感覚論が先行している（思い込みで議論される）問題は他にはないのではないかと感じる事がとても多い。なぜなら、講演会の後に必ずといっていいほど、「想像もしなかった」「これは早く拡散しないと」「衝撃だった」などの驚きの声を多数いただくからである。

なぜこのような思い込みが先行した議論が多いかという点、思うところがある。1つは、人の問題ゆえに、誰でも自らの経験値をもとに何らかの議論に参戦できるから、という理由である。これが金融工学であったり、貿易分野であったりすれば、その分野に関わることがほぼない、もしくは経験値として話すには材料が少ない、という人は少なくない。しかし、人口問題となると、切り口は違っても、自らの経験値に基づいた意見は可能、となってくる。2つ目は、日本では人口学として学府で専門的な教育が独立して存在しない、ということがある。統計的にはエビデンスがないものが、思い込みで主張された場合、専門的な見地からそうではない、と指摘できる人材が少ないのである。この2つが人口問題について思い込みが蔓延しやすい主たる原因であるように思う。

そこで今回は、平成・令和と読者が耳にすることが多くなった「未婚化」「婚活」などのパワーワードに関連して誤解が非常に多い「男女の結婚年齢」、すなわち結婚適齢期についてのリアルデータを分析した結果をレポートしたい。

データソースには、厚生労働省「人口動態調査」に掲載されている、2018年における婚姻届の集計結果を用いているため、ニッポンの結婚、についての全数分析結果である。

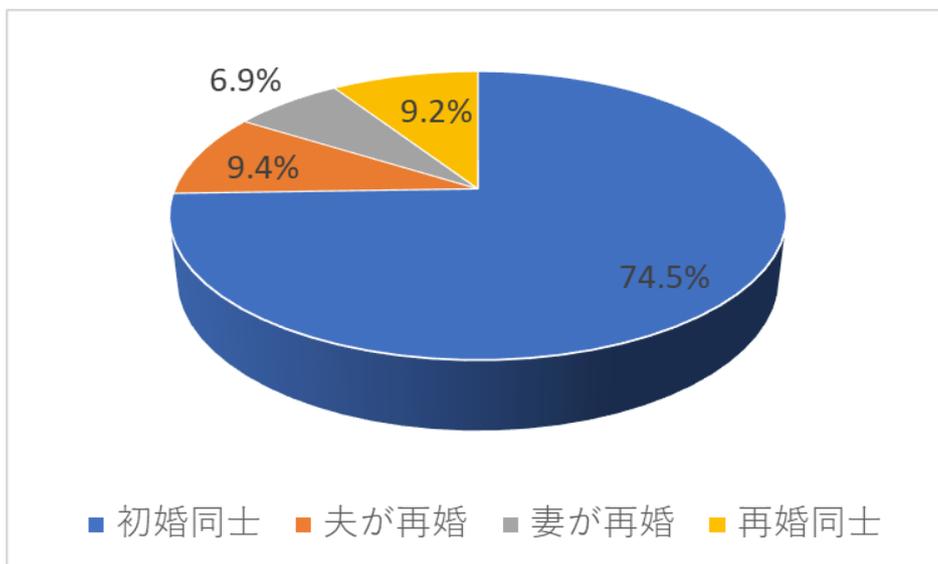
1—再婚者を含む結婚が4組に1組

2018年に役所に婚姻届を提出し、結婚生活を開始したカップルの件数は45万6148件となった。このうち、男女ともに初婚の件数が33万9772件と最も多く、全体の74.5%（約4組に3組）を占めている。

次に多いのが、夫だけが再婚者である結婚で、4万3051件の9.4%（約10組に1組）、続いて、男女ともに再婚者である結婚が4万2004件で9.2%（約10組に1組）、そして、最も少ない組み合わせは、妻だけが再婚者である結婚3万1321件の6.9%（約15件に1件）であった（図表1）。

以上から、初婚同士のカップルと再婚者を含むカップルは、3:1の比率であることがみてとれる。4組に1組は再婚者が含まれている¹ため、「再婚もそう珍しくなくなった」という感覚を持つ読者が多くても、おかしくはないといった状況といえる。

【図表1】2018年 婚姻届45万6148件に占める初婚・再婚組み合わせ割合



資料) 厚生労働省「人口動態調査」2018年より筆者作成

また、夫が初婚（妻が初婚、再婚の双方を含む）の件数は37万1093件、妻が初婚（夫が初婚、再婚の双方を含む）は38万2823件となり、初婚男女のそれぞれの婚姻数で見ると、初婚女性が初婚男性を1万1730人、上回っている。この結果からは、自らが初婚の場合において、わずかながら女性の方が男性よりも婚歴のある相手に対しての偏見がないようである、という傾向がみてとれる²（図表2）。

¹ この割合は固定化傾向にある。

² 結婚支援の現場からも、初婚男性の方が初婚女性よりも相手の婚歴についてこだわりがある傾向が指摘されている。

【図表 2】 2018 年 初婚男女の相手の婚歴割合 (%)

	初婚女性	初婚男性
相手が初婚	88.8%	91.6%
相手が再婚	11.2%	8.4%

資料) 厚生労働省「人口動態調査」2018 年より筆者作成

2—非常に明確な「初婚男性の婚期」

一般的な感覚では、男性の婚期は女性よりも遅く、30 歳を過ぎてからとゆっくり考えていても結婚は可能、ではないだろうか。講演会でも「息子は 33 歳ですが、アラサーでお付き合いしていた人とは別れました。結婚はするとは言っています」といった声をいただくことがある。

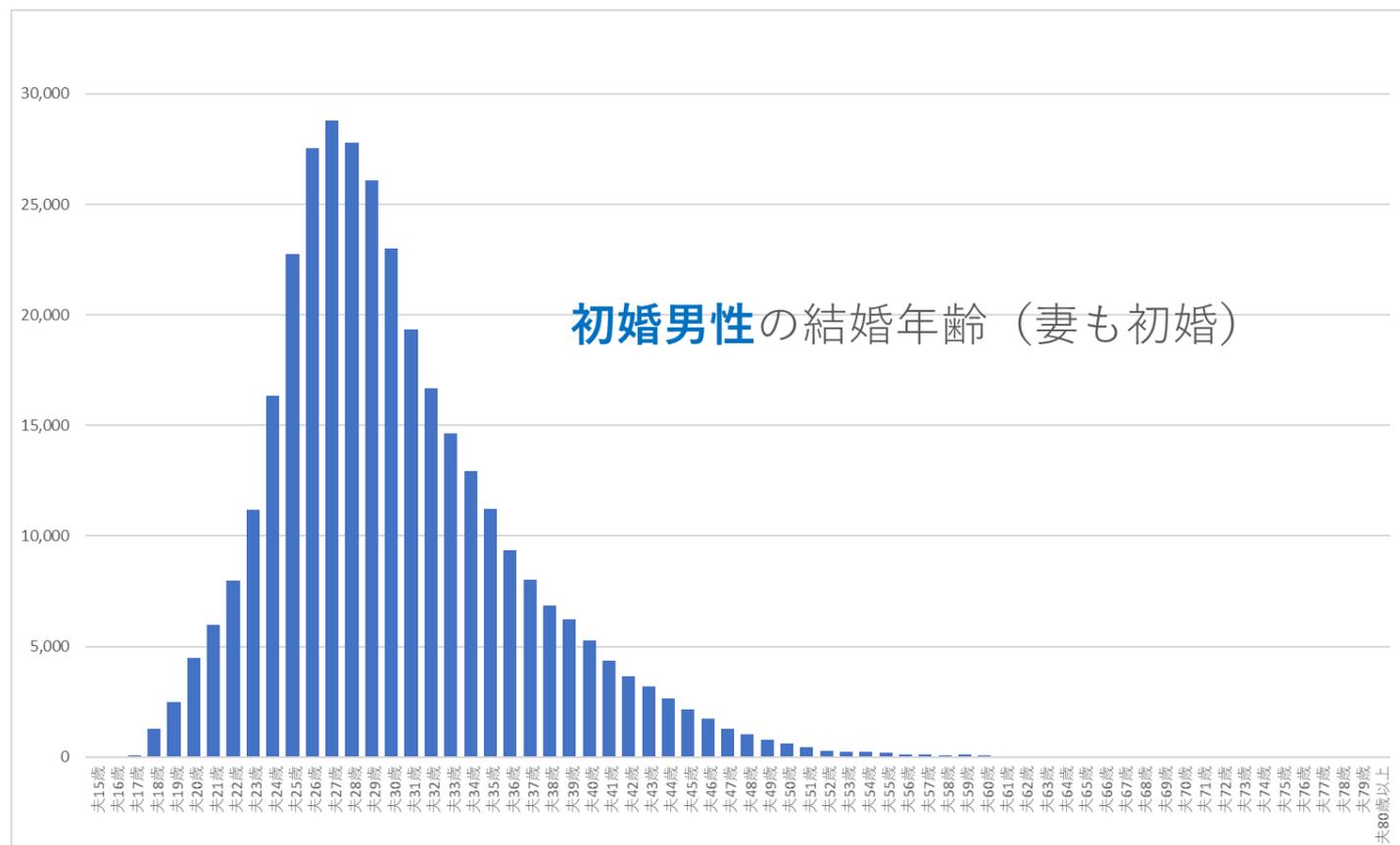
民間や自治体の結婚相談所（センター）等では、女性登録者よりも男性登録者の年齢がかなり高くなるという状況であり、40 歳以上の男性の登録が多くなる傾向があることから、少なくとも男性の 30 代はまだまだ結婚は難しくない、といった感覚があるように見受けられる。

そこで、まずは 2018 年に初婚を果たした男性について、結婚年齢のデータを確認してみたい。初婚男性のパートナーには初婚女性と再婚女性がいるが、圧倒的に多い（9 割超）初婚女性との結婚、約 34 万件について、男性の年齢別件数をグラフ化した（図表 3）。

結婚を希望する男性やその親族の感覚では、ある程度の年齢幅をもって緩やかに男性の結婚が発生していそう、とったイメージを持っていると思われる発言が多い。しかしながら、グラフからは 20 代後半を頂上として、左右に非常に綺麗な形の「急角度の山」ができていることがみてとれる。つまり男性であっても、その結婚は 20 代後半に集中的に発生する（あとは少ない）、という状況がエビデンスとして示されている。

統計的には、27 歳が初婚男性の結婚のピークであり、27 歳から年上・年下、どちらに年齢が離れても結婚件数は大きく減少する。このような結婚の状況は、女性の結婚に関してはそうであると思いついていて人は非常に多い。しかし、実際には男性も大差がない、という話になると「ちょっと待った、それは本当ですか」という驚きの反応となることが講演会ではほとんどである。

【図表3】初婚男性の結婚年齢³／妻も初婚のケース（件）



	件数	累計件数	累計割合		件数	累計件数	累計割合
夫17歳	63	63	0.0%	夫30歳	23,019	205,724	60.5%
夫18歳	1,274	1,337	0.4%	夫31歳	19,338	225,062	66.2%
夫19歳	2,481	3,818	1.1%	夫32歳	16,670	241,732	71.1%
夫20歳	4,464	8,282	2.4%	夫33歳	14,654	256,386	75.5%
夫21歳	5,960	14,242	4.2%	夫34歳	12,943	269,329	79.3%
夫22歳	7,975	22,217	6.5%	夫35歳	11,232	280,561	82.6%
夫23歳	11,190	33,407	9.8%	夫36歳	9,340	289,901	85.3%
夫24歳	16,338	49,745	14.6%	夫37歳	8,029	297,930	87.7%
夫25歳	22,762	72,507	21.3%	夫38歳	6,863	304,793	89.7%
夫26歳	27,547	100,054	29.4%	夫39歳	6,249	311,042	91.5%
夫27歳	28,789	128,843	37.9%	夫40歳	5,283	316,325	93.1%
夫28歳	27,771	156,614	46.1%				
夫29歳	26,091	182,705	53.8%				

資料) 厚生労働省「人口動態調査」2018年より筆者作成

³ 17歳から集計がスタートしているのは、婚姻統計における「婚姻件数」の計上が「夫妻の年齢は、結婚式をあげたとき、または、同居を始めた時の年齢である」ため。例えば、授かり婚のケースにおいて、先に挙式を行い、18歳以降に入籍する、といったケースが該当する。

上のグラフは結婚相手の女性を「婚歴なしに限る」と考えて初婚を目指す男性の参考にはなるグラフである。相手の女性を初婚に限ると、男性が28歳と29歳の間までに出される婚姻届が初婚同士結婚件数の5割に達する様子が示されている。このことから、「過半数が婚姻届けを出し終える年齢＝適齢期」とするならば、男性であっても29歳が適齢期、ということになる。

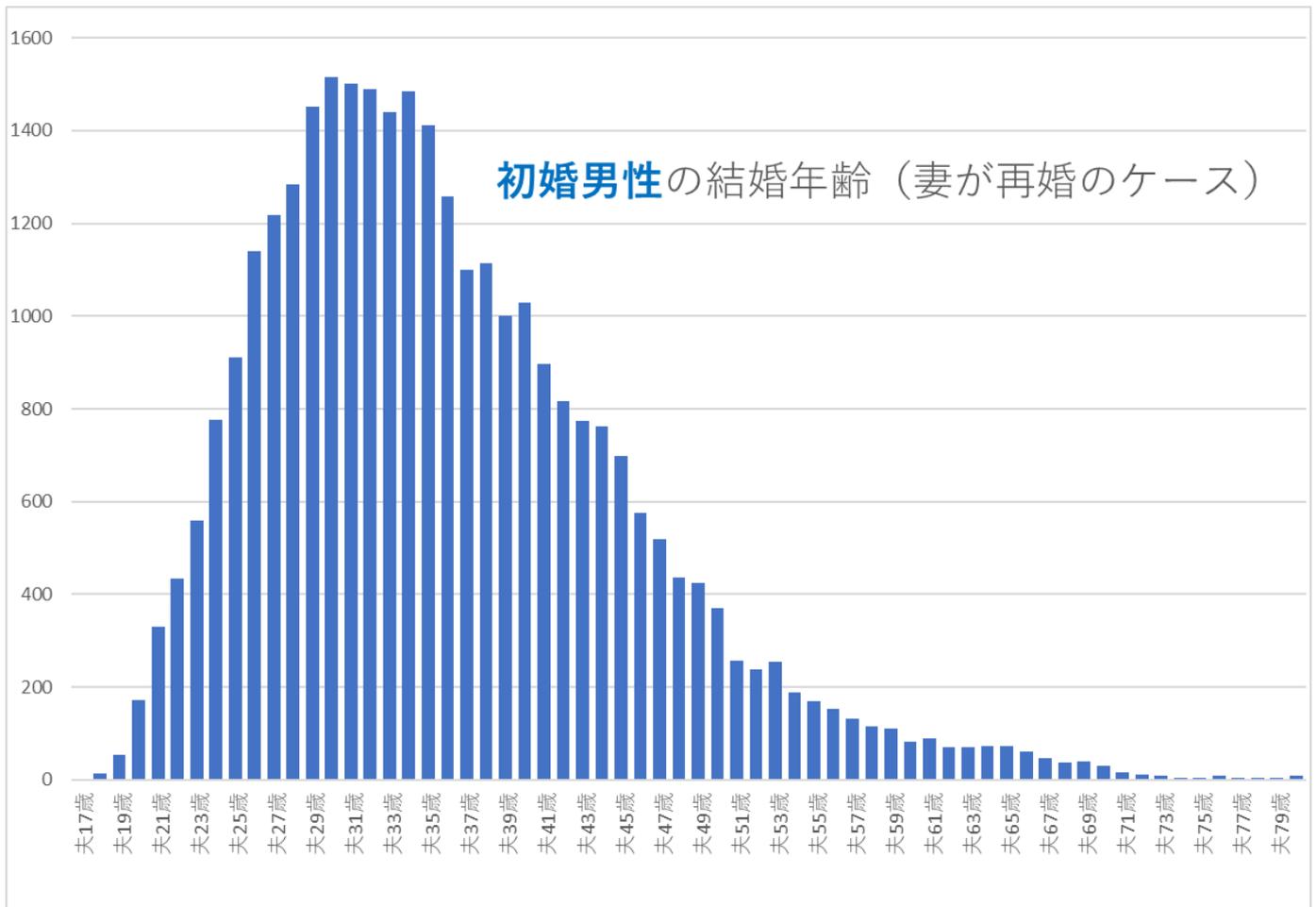
また表からは、男性の婚姻が32歳で7割、35歳で8割にまで達することがわかる。このことから35歳までに婚姻に至らなかった場合は、初婚同士の年の差は男女どちらが上でも3歳差までが7割という状況から（2018年初婚同士婚姻数34.0万件のうち、男女どちらが上か関係なく3歳差以内の年齢差の婚姻が23.3万件で69%に達する）、結婚可能な相手の年齢における既婚率が高くなっているために、かなり苦戦しそうであることが指摘できる。

39歳では婚姻が9割を超えるので、この年齢での男女ともに初婚での結婚は難しい、という表現が大きさではない、という状況である。

3——再婚者の女性も可能と考える場合

最近では結婚相談所、地域結婚支援センター、マッチングアプリなど、あらゆる結婚相手探しの窓口において、マッチングシステムによるデータ検索で結婚相手を探す、というファーストアクセス方法を用いた利用が増加してきている。このため、数万単位の登録相手から、条件検索によって絞り込んでパートナーを探すことになる。その絞り込みの際に、男性は女性の年齢に加えて婚歴にも制限をつけるケースが多い⁴。そこでまずは結婚相手を初婚女性に限った場合の男性の結婚年齢を見てきたが、次に、相手の女性の婚歴は気にしない、とした場合の成婚状況も見てみたい（図表4）。

【図表 4-1】初婚男性の結婚年齢／妻が再婚のケース（件）



⁴ これは女性も同様であるものの、男性の方が年齢の設定や婚歴へのこだわりが強い傾向がマッチングシステム運営の現場からは指摘されている。

	件数	累計件数	累計割合		件数	累計件数	累計割合
夫17歳	1	1	0.0%	夫36歳	1,257	18442	58.9%
夫18歳	14	15	0.0%	夫37歳	1,100	19542	62.4%
夫19歳	54	69	0.2%	夫38歳	1,115	20657	66.0%
夫20歳	171	240	0.8%	夫39歳	1,000	21657	69.1%
夫21歳	329	569	1.8%	夫40歳	1,028	22685	72.4%
夫22歳	433	1002	3.2%	夫41歳	897	23582	75.3%
夫23歳	560	1562	5.0%	夫42歳	816	24398	77.9%
夫24歳	776	2338	7.5%	夫43歳	775	25173	80.4%
夫25歳	911	3249	10.4%	夫44歳	763	25936	82.8%
夫26歳	1,141	4390	14.0%	夫45歳	698	26634	85.0%
夫27歳	1,218	5608	17.9%	夫46歳	575	27209	86.9%
夫28歳	1,285	6893	22.0%	夫47歳	519	27728	88.5%
夫29歳	1,451	8344	26.6%	夫48歳	436	28164	89.9%
夫30歳	1,515	9859	31.5%	夫49歳	425	28589	91.3%
夫31歳	1,502	11361	36.3%	夫50歳	371	28960	92.5%
夫32歳	1,490	12851	41.0%				
夫33歳	1,439	14290	45.6%				
夫34歳	1,484	15774	50.4%				
夫35歳	1,411	17185	54.9%				

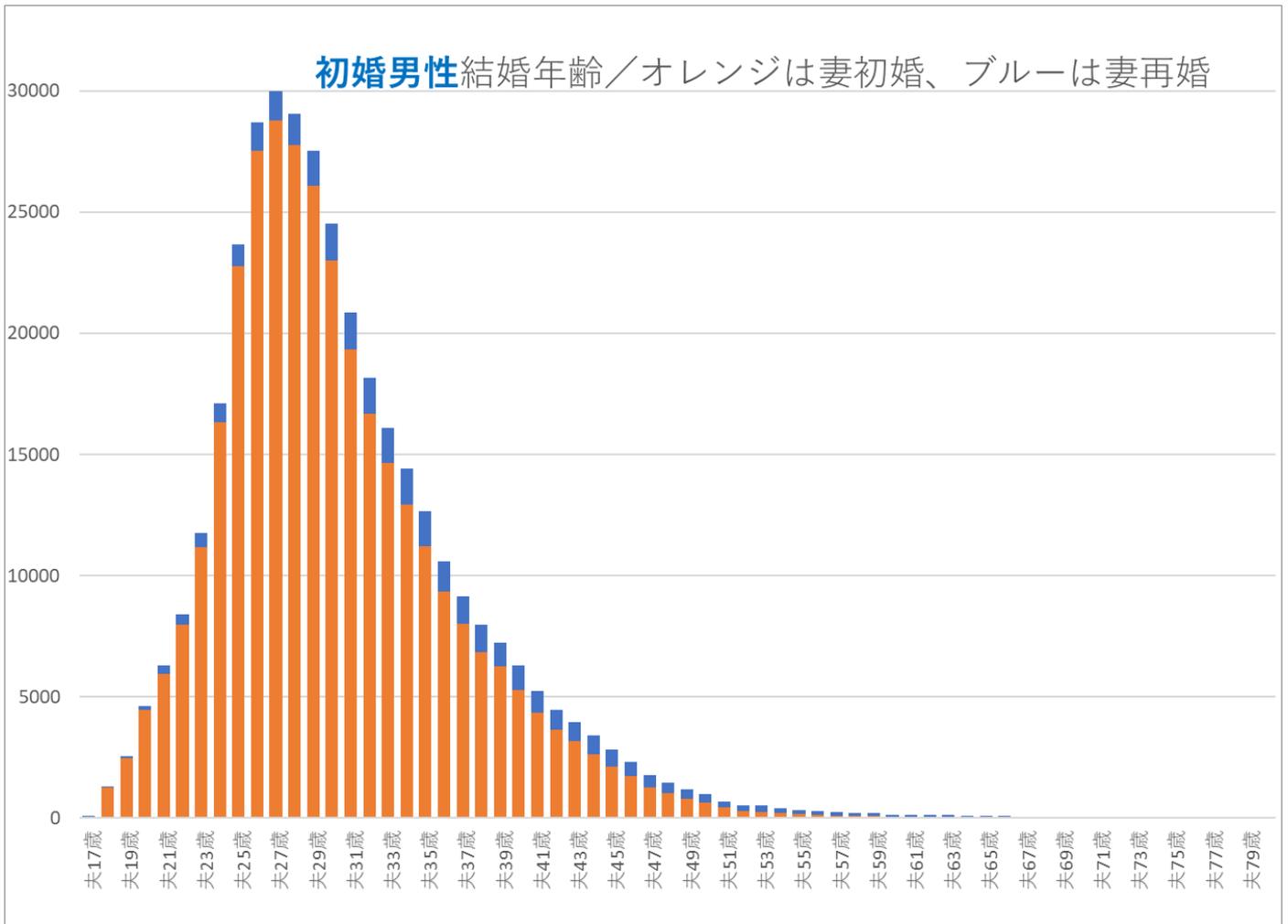
資料) 厚生労働省「人口動態調査」2018年より筆者作成

まず、データの前提として、初婚女性が結婚相手の場合の1割に満たない婚姻件数（初婚男性の結婚の8.4%）である点には留意が必要である。その上で、相手の女性を婚歴ありの女性に限定した場合の初婚男性の結婚年齢をみてみると、最頻値は30歳で初婚女性との結婚の場合と1歳しか変わらない。しかし、婚姻が過半数を超える年齢が34歳であることから、初婚女性が相手の場合よりも5歳程度の適齢期のモラトリアムがあることが示されている。

そうはいうものの、婚姻が7割を超える年齢が40歳、8割を超える年齢が43歳であるので、やはり40歳を超えると「婚歴ある女性でもいいのだけれど」といった条件をつけられるほど、簡単なものではなく、マッチングが厳しくなることは注意したい。

また49歳で9割に達するため、結婚相手を婚歴あり女性に限定したとしても、初婚の男性にとって50歳以降の結婚は非常に厳しい状況であることが示されている。

【図表 4-2】初婚男性の結婚年齢／妻が再婚+初婚合算のケース（件）



	A妻が初婚	B妻が再婚	A+B 夫が初婚合計	その年齢までの 累計件数	累計割合
夫17歳	63	1	64	64	0.0%
夫18歳	1,274	14	1,288	1,352	0.4%
夫19歳	2,481	54	2,535	3,887	1.0%
夫20歳	4,464	171	4,635	8,522	2.3%
夫21歳	5,960	329	6,289	14,811	4.0%
夫22歳	7,975	433	8,408	23,219	6.3%
夫23歳	11,190	560	11,750	34,969	9.4%
夫24歳	16,338	776	17,114	52,083	14.0%
夫25歳	22,762	911	23,673	75,756	20.4%
夫26歳	27,547	1,141	28,688	104,444	28.1%
夫27歳	28,789	1,218	30,007	134,451	36.2%
夫28歳	27,771	1,285	29,056	163,507	44.1%
夫29歳	26,091	1,451	27,542	191,049	51.5%
夫30歳	23,019	1,515	24,534	215,583	58.1%
夫31歳	19,338	1,502	20,840	236,423	63.7%
夫32歳	16,670	1,490	18,160	254,583	68.6%
夫33歳	14,654	1,439	16,093	270,676	72.9%
夫34歳	12,943	1,484	14,427	285,103	76.8%
夫35歳	11,232	1,411	12,643	297,746	80.2%
夫36歳	9,340	1,257	10,597	308,343	83.1%
夫37歳	8,029	1,100	9,129	317,472	85.6%
夫38歳	6,863	1,115	7,978	325,450	87.7%
夫39歳	6,249	1,000	7,249	332,699	89.7%
夫40歳	5,283	1,028	6,311	339,010	91.4%
夫41歳	4,343	897	5,240	344,250	92.8%
夫42歳	3,629	816	4,445	348,695	94.0%
夫43歳	3,182	775	3,957	352,652	95.0%
夫44歳	2,633	763	3,396	356,048	95.9%
夫45歳	2,132	698	2,830	358,878	96.7%
夫46歳	1,728	575	2,303	361,181	97.3%
夫47歳	1,264	519	1,783	362,964	97.8%
夫48歳	1,020	436	1,456	364,420	98.2%
夫49歳	778	425	1,203	365,623	98.5%
夫50歳	624	371	995	366,618	98.8%

資料) 厚生労働省「人口動態調査」2018年より筆者作成

最後に、初婚男性の結婚年齢に関して、相手の女性が初婚の件数に再婚の件数も合算した件数、を見てみたい。相手の女性が初婚・再婚を問わず、初婚男性の結婚年齢がどのような発生状況かを見ることが出来る。

最頻値はやはり 27 歳であること、提出される婚姻届が 5 割に達する年齢が 29 歳となることなどは、相手が初婚女性のためのケースと大きな差異は見られない。また、33 歳で 7 割、35 歳で 8 割にまで達するという状況も相手が初婚女性のためのケースと大差がない。

これは再婚女性を選ぶ初婚男性が極端に少ない（相手が初婚：相手が再婚＝11：1）ことが影響している。先述の通り、初婚男性と再婚女性の組み合わせの適齢期は 34 歳であることから、再婚女性を選ぶ男性の割合が上がれば、5 歳程度のモラトリアムがあるからである。ただし、相手探しの行動パターンが変わらない場合は、モラトリアムは発動されず、29 歳が適齢期、という状況は容易には動かないだろう、ということが指摘できる。

合算のケースでも 40 歳で 9 割を超えるため、やはり初婚男性の結婚のピークは 27 歳、過半数が結婚するという基準の結婚適齢期は 29 歳、そして、35 歳以降の結婚はそれまでとは異なりかなり難しくなり、40 歳以降は成婚を安易にとらえることは禁忌、ということが指摘できる。

4——なぜ婚期は女性のもの、と考えるのか

2019 年は有名アイドル男性 40 代（初婚）と 20 代女性の結婚が大きく報じられた。そして 2020 年も大物芸人男性 50 代男性と 30 代女性の結婚が報じられた。この報道を見て筆者に若い男性から「すごい年の差婚、増えていますよね」という感想も届いている。

しかしながら、どちらの結婚も統計的にみると、初婚男性の婚姻届に占める割合が 0.2% という発生確率の結婚となる。実に 500 組に 1 組という確率の結婚であり、まさに「異常値」といえる結婚の特殊事例となる。そもそも初婚男性と初婚女性との婚姻は、初婚同士婚姻届に占める割合において、40 代男性が 7.6%、50 代男性が 0.7% と極端に少ない。

ニュース報道は多くの人々に記事が読まれてこそ、という性質から、普通に起こっていること、よくあること、に関しては記事化されにくい。むしろその逆の傾向である。

結婚に関しては特に、「一般的ではない」「普通からの乖離幅が非常に大きい」結婚ほど大きく報じられる、ということが広く周知される必要があると、筆者は日々感じている。

【参考文献一覧】

厚生労働省。「人口動態統計」

天野 馨南子。[「年の差婚」の希望と現実—未婚化・少子化社会データ検証—データが示す「年の差婚の希望の叶い方」](#)。ニッセイ基礎研究所「研究員の眼」2017 年 2 月 20 日

天野 馨南子。[初婚・再婚別にみた「年の差婚の今」\(上\) —未婚少子化データ考— 平成ニッポンの夫婦の姿](#)。ニッセイ基礎研究所「基礎研レポート」2018 年 5 月 14 日

天野 馨南子. [初婚・再婚別にみた「年の差婚の今」\(下\) -未婚少子化データ考-変わり行く2人のカタチ](#). ニッセイ基礎研究所「基礎研レポート」2018年5月28日